

オクラトキシンAの発がん性について

実験動物慢性試験データ

マウス

- ① 5.6 mg/kg 体重/日の OTA を雄に 44 週間混餌投与。
- ② 3.5 mg/kg 体重/日の OTA を雄に 70 週間混餌投与。
- 7 mg/kg 体重/日の OTA を雄に 5~30 週間混餌投与。
- ③ 40 mg/kg 体重/日の OTA を雌雄に 24 週間混餌投与。

ラット

- ⑤ 0.21 mg/kg 体重/日の OTA を雌雄に 9 か月間強制経口投与。
- ⑥ 0.07 mg/kg 体重/日の OTA を雌雄に 15 か月間強制経口投与。
- ⑦ 0.07 mg/kg 体重/日の OTA を雌雄に 2 年間強制経口投与。
- ⑨ 5 mg/kg 飼料の OTA を雄に 9 か月間混餌投与。
- ⑩ 0.05 mg~100 mg/ラット/日の OTA を 2 年間混餌投与。
- ⑪ 0.05 mg 体重/日の OTA を雄に 2 年間混餌投与。

悪性腫瘍
 ・腎細胞癌
 前癌病変
 ・腎嚢胞腺腫、腺腫
 (腎臓腫瘍は雄の発生率が高い)
 一部に肝細胞癌及び肝細胞腺腫

ブタ

- ⑫ 1 mg/kg 飼料/日の OTA を雌に 2 年間投与

腫瘍は認められなかった。
 尿管の損傷及び間質の線維化。
 腎不全は認められなかった。

遺伝毒性データ

突然変異試験

- ・Ames 試験では代謝活性化の有無に係らず大部分が陰性。
- ・トランスジェニックマウス及びラットを用いた *in vivo* 突然変異試験で陰性。

in vivo 染色体異常及び小核試験

- ・染色体異常試験で陽性及び陰性結果。
- ・小核試験で陽性結果。

in vitro 染色体異常及び小核試験

- ・染色体異常試験で陽性及び陰性結果。
- ・小核試験で陽性結果。

DNA 損傷及び修復

- ・不定期 DNA 合成。
- ・*in vivo* DNA 一本鎖切断。
- ・*in vitro* 及び *in vivo* コメットアッセイ陽性。
- ・トランスジェニックラットを用いた *in vivo* Spi アッセイ陽性(欠失変異)。

作用機序仮説

